
届けたい想い / F F ?

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届けたい想い／FF？

【Nコード】

N6670A

【作者名】

深海

【あらすじ】

ティードとユウナ。あの湖でのシーンです。

「ユウナ…」

月明かりが水面に乱反射し、夜だとは思えない明るさの湖の畔に膝を抱え蹲るユウナ。
かけられた声に振り返ると、優しく微笑むティードがいた。

「とうとう…だな…」

「そうだね…終わらせなきゃ…」

隣に並ぶティードを見上げると力なく微笑むユウナ。

「えっ…きゃっ！」

ティードはユウナの腕を取り立ち上がると力いっぱい引っ張り、ユ

ウナと共に湖に飛込んだ。

水面から顔を出し髪をかき上げると、ティードの手がユウナの頬に触れる。

水に濡れ、月明かりに照らされキラキラと光る二人。

「ユウナ…笑って？」

「でも…」

そつと重なるティードの唇。

驚き身を固くしたユウナだったが、徐々に体の力を抜くとティードの首に手を回した。

冷たい水の中で唯一熱を持つ互いの唇。

そこから熱を得ようとむさぼりあう。

だがその口付けはとても優しいものだった。

「また一緒にここに来ようね？」

「うん」

「君のザナルカンドに行きたい。ブリッツの試合、特等席用意してくれるよね？」

「うん」

笑顔で言葉を紡ぐユウナの瞳から一筋涙が溢れる。

「いろんな所に連れて行ってくれる？…もっと…もっと…もっと…ずっと一緒にいたいよ…」

「うん」

「…嘘つき…」

なぜだろうね。

あの時、君が遠くに行ってしまうってなんとなくわかってたんだ。だから無理なお願いをいっぱいした。

我が儘を言って君を困らせた。

あの時涙を拭ってくれた君の手の温かさ、忘れないよ？

あの唇の熱さも…。

「ティーダッ…！」

「ユウナ…」

消えかかる君はもう触れる事が出来なくて。

「嫌だよ…」

「ごめんな…約束、守ってやれなくて…」

「…嫌だよ…！」

せめて、もっと君をちゃんと見たいのに涙で霞んでしまった。

「俺…ユウナの事、好きだったから…！」

「過去系でなんか言わないで…ずっと一緒だよって、言ったのに…」

悲しそうに優しく微笑んだのが、君の最後の姿。

「ティーダ…」

なんで私、笑顔で言えなかったんだろう。

弱い私でごめんね？

でも必ず君に届けるから。

この気持ち…君に必ず。

「大好き」

って。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6670a/>

届けたい想い/FF?

2010年10月14日23時05分発行